

平成26年度第2回碧南市スポーツ推進審議会 会議録

- 1 日時
平成27年3月24日（火）午後1時30分～午後3時00分
- 2 場所
碧南市臨海体育館 会議室
- 3 出席者及び欠席者
 - (1) 出席者
杉浦昌彦、石川信夫、生田弘幸、磯貝忠通、若松衛、有本征世、伴野義雄、加藤友子、古久根久美子、鈴木和代、角谷多恵子、高松透、金沢宏治
 - (2) 欠席者
井上浩之、生田讓、深津清孝、竹内友二
 - (3) 事務局職員
スポーツ課長 中根雄介、スポーツ課課長補佐 加藤誠、スポーツ課係長 神谷幸宏、スポーツ課主査 足立淳、平松智子、長崎良亮
- 4 傍聴者 0人
- 5 議題
 - (1) 碧南市スポーツ推進計画の策定について
 - (2) 平成26年度スポーツ課事業報告について
 - (3) 平成27年度スポーツ課事業計画について
- 6 議事の要旨
 - (1) 教育長あいさつ（高松透教育長）
 - (2) 会長あいさつ（杉浦昌彦会長）
 - (3) 議題
 - (1) 碧南市スポーツ推進計画の策定について
事務局が別冊資料に基づき、平成27年度～平成36年度までの10年計画となる碧南市スポーツ推進計画について説明した。
 - (2) 平成26年度スポーツ課事業報告について
事務局が会議資料に基づき、スポーツ課事業報告について説明した。
その後、審議した結果、了承された。
 - (3) 平成27年度スポーツ課事業計画について
事務局が会議資料に基づき、スポーツ課事業計画について説明した。
その後、審議した結果、了承された。

<主な意見・質疑>

- 【委員1】別冊資料P18「(2) 市独自のスポーツ指導者の育成と支援」の「①スポーツ指導者の資質向上を図ります。」という文言について、多岐にわたる指導者（市民全体が対象）といった意味合いのある言葉にした方が良いのではないか。

- 【事務局】 上記箇所に記載してあるのは、競技スポーツが対象であり、別冊資料P 25 「(6) 既存スポーツ・レクリエーション団体の充実と自主活動の促進」、別冊資料P 26 「(8) 障害者・高齢者のスポーツ機会の創出」の記載箇所が、子どもから高齢者までを対象とした内容となっている。P 25～26のあたりで、もう少し市民全体を対象とするわかりやすい表現の記載を検討する。
- 【委員2】 前回、体育協会で「指導者バンク（指導者名簿）」を作ったが、その指導者を受け入れてくれる競技団体がなく、自然消滅してしまったが、その指導者たちを活躍する場を与えないといけない。
- 【事務局】 前回の振興計画では、指導者バンクを作成したが、名簿を作るだけに終わってしまったため、今回の推進計画では、指導者の資質を高めるということに主眼をおき、指導者を育てようと考えている。
- 【委員3】 指導者自身も、講習会を受けたあと、指導の場や機会を受身で待っているのではなく、積極的に指導する機会を自分から見つけていくということを講習会の出だしで指導者へ釘を刺すことも大事だと思う。
- 【委員4】 別冊資料P 23 「⑥鉄道の廃線跡地」について、具体的に話は進んでいるのか。
- 【事務局】 三河線の跡地は全長2.7キロあり、来年から工事（整備）に入る。ウォーキングコースも検討している。
- 【委員4】 別冊資料P 23 「③サッカー場と陸上競技場」について、具体的にはどのような調査や研究がされているのか。
- 【事務局】 碧南緑地（海底トンネルの上）を整備してはどうか、という意見があり、今後どう展開していくかを検討している段階である。
- 【委員5】 会議資料P 4 「4 競技スポーツの強化と振興」について、現在、競技スポーツ選手への奨励金はいくら渡しているのか。
- 【事務局】 オリンピック・世界選手権へ出場する個人へは5万円、団体へは3万円、国体・高校総体・全国大会へ出場する個人へは2万円、団体へは1万2千円、東海地区大会へ出場する個人へは1万、団体へは6千円渡しており、年間約100万円支出している。